20170305

新しい自分と共に（ヨハネ20:19-23）

信者の方々が、いろいろな葛藤に捕らわれて、無気力になってしまうことがあります。それには、いろいろな理由があるでしょう。その中で、大きな一つの理由が、信者の方々が、いまだに過去の自分に捕らわれているということです。過去の自分から、いまだに卒業していないということが、大きな理由の一つです。その結果、現実の自分を越えることができません。そうすると、未来の自分に対しては、不安を覚えるしかありません。それがずっと繰り返し、ときには悪循環してしまうことがあります。クリスチャンの私たちは、このような悪循環を断ち切って、クリスチャンとしての勝利の道を歩まないといけないと思うし、必ず歩むことができるということを、今日確認していただきたいと願います。

今日の聖書を見ますと、十字架にかけられて、お墓の中に葬られたイエス様がよみがえられて、弟子たちの前に現れたときの場面です。そこでイエス様は、驚いて今も恐る恐るビビッている弟子たちに向かって、このようにおっしゃっています。「あなたがたに平安がありますように」と。これは単なる励ましと慰めの表現ではありません。それから、よみがえられた後は、弟子たちの前に現れるたびに、平安があなたがたにありますようにとおっしゃいました。それから、聖霊を受けなさいと息を吹き込まれたということも書かれています。手と脇腹を示されて、わたしがその十字架で死んだイエス、そのものなのだ。でも、今生きている、復活したのだよということを示されたわけです。わたしが遣わされたのと同じように、私もあなたがたをこの世に遣わします。以前は、そのようになることを祈りますとお願いしていたのですが、いまは、復活した後は、あなたがたを世に遣わします。あなたがたが誰かの罪を許すなら、その人の罪は許された、もし許さなければ罪はそのまま残る。こういう驚くべきことをおっしゃっていました。どういう意味なのでしょうか。恐れている弟子たちの前に現れて、あなたがたは、完全に新しく作りかえられているのだと、イエス様の復活によって、もうすべてが変わっているということを知らせていらっしゃるわけです。変わりました。以前とは違います。しかし、信者の方々が、いまだにそれに気づいていません。過去の自分と、いまだに仲良く親しく付き合っているのです。そこを断ち切らないといけません。それが実は、周りが悪いのではなくて、そこが葛藤の原因であり、無気力の理由になるわけです。イエス様は、おっしゃっています。あなたがたに平安がありますように。なにがあっても、平安を保つことができる存在に、もう変わっているのです。そうおっしゃっているのに、私たちは、でも、私は昔、親にこのように虐待され、学校でこのようにいじめられていて、私には才能があまりない…ということばかり考えているのです。以前の自分を脱ぎ捨てて、新しい自分と正しく向き合って、その新しい自分と付き合っていくことが、クリスチャンのやるべきことであり、どんな状況であろうが、必ず勝利できる秘密であるし、クリスチャンの祝福と特権でもあるのです。なぜなのでしょうか。

それは事実であっても、以前の自分はイエス様とともに、永遠にお墓の中に葬られたからです。以前の自分はどんな存在だったでしょうか。皆さんが気づいていたのか、認めているかどうか関係なく、私たちは滅びの運命に捕らわれて、一歩も出られない存在でした。そのような過去の自分は、イエス様とともにお墓の中に葬られて永遠にふたをしたわけです。それなのに、私たちはしょっちゅう、そこを遊園地でもないのに訪れていて、開かないふたなのに、子ことから自分で開けられると思って開けて、引き出しをいっぱい引っ張り出してそこで遊ぶのです。マリヤのところで天使が言いました。「なぜよみがえられた方を死んだ者の中から探しているのか」とおっしゃったように、なぜふたをしてもう終わった自分なのに、いまだにそれを探し求めて付き合って、笑ったり泣いたりしているのかと、おっしゃっているのです。この部分が、今日の礼拝を通して、皆さんのものになり、そして、明確に整理されることを祈りたいと思います。滅びの運命に捕らわれていた自分というのは、どんな存在なのでしょうか。聖書は、このように教えています。自分の罪過と罪との中に死んでいたものであって、つまり、生まれたそのときから、神様に対してはまったく無感覚な存在であり、むしろ、神様の反対の方向に行くしかない存在として生まれたということです。その結果、聖書が言っている滅びの運命に捕らわれていた自分はどんな存在なのかというと、生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれた者でした。その結果、自分では頑張るつもりであっても、生きることが空中の権威を持つ悪魔、サタンが作り上げた世の流れに従って行くしかない、奴隷の人生を生きるしかないものだったということです。根本的に、基本、滅びの運命に捕らわれていたものなのです。自分はちょっと違うだろうと思う人は結構いらっしゃるのですが、一人も例外はありません。一回も親の言うことを否定せずに、良い子、良い子で、社会にこれっぽっちも迷惑をかけずに、自分に与えられている職務を誠意をもって全うしていた人は、滅びの運命とは関係ないかのように思うでしょう。関係ありません。すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず。クリスチャンの方々でも、自分は違うだろうと思うのです。犯罪者でも裁判官でも、基本、滅びの運命に捕らわれて、そこから逃げられないのは一緒です。クリスチャンの私たちも、以前はそういう存在でした。多くのクリスチャンが自分こうならなければ、こうしなければ、これこそが理想だといろいろな設定をします。それ自体が、自分の首を絞めてくるようなものになります。元々、滅びの運命に捕らわれて、地獄に行くしかない人間なのに、正しく生きるとか、こうしなくちゃとか、両親に従って生きるとか、これこそが正しい人生なのだという枠を作るので、疲れるようになるしかありません。なぜこういうことが言えるのかというと、自分がそういう存在だったのです。ここに立っている牧師が。人間というには、こうならなくちゃ、こうしなくちゃ、そして、そうなっていない自分、そうなっていないだれかを見ると我慢できない、耐えられない、それがすべてストレスになるしかありません。それは基本、はなから勘違いしているからです。人は、だれでも滅びの運命に捕らわれて生まれるものです。その違いは、人の中にはありません。皆です。そして、結局は、どうなるのか。一度死ぬことと、死後にはさばきを受けることが定まっている。結局は、みな地獄に行くしかありません。一人も例外はありません。だれかが良い人間、偉い人間、この人は悪い人間、私は正しい、あの人はだめ、そういうことは、人間同士の愚かな争いに過ぎないものであって、そういうことはありません。根っこから勘違いで、間違っていることなのです。こういう私が、まったく希望のない、一点たりとも光が見えてこない私は、イエス様とともに永遠にお墓の中に葬られてふたをしてしまいました。これを覚えていてください。基本、滅びの運命に捕らわれているので、自分なりに人生を精一杯生きるというつもりが、実はねじ曲がった人生を生きるしかなかったのです。ヘブル2：15を見ると、一生、死の恐怖につながれて、奴隷として生きると書いてあります。そういう人生を送るしかないのです。永遠の世界もまったくわかっていないし、霊的な事実も分かっていないので、ただ食べることばかりなのです。幸せを考えるときにも、成功を考えるときにも、すべてがそういう次元、レベルです。なぜでしょうか。生まれたときから、たましいが死んだままの状態で、滅びの運命に捕らわれているので、そうなるしかありません。だから、皆がこういう勘違いの中で人生を生きてまいりしました。一生懸命、頑張ればどうにかなるだろうと。人の努力に人生が左右されると生きてきました。その人生は、イエス様とともにお墓の中に葬られました。本当に、一生懸命、頑張れば幸せになれるものなのでしょうか。滅びの運命に捕らわれているまま、努力すれば変わるのでしょうか。そういうねじ曲がった人生を送ってきたわけです。お金さえあれば、人生どうにかなるだろう。より豊かな人生になるだろうと、ねじ曲がった人生を歩いてきました。成功を目標にして、人生を歩いてきたのです。いまもお話を聞きながら、私は今もそういう状態なのですが、子どもに対してそういうことばかり願い、それを教え込んでいますがという方もいらっしゃるかもしれません。それはねじ曲がった人生なのです。頑張れば人生変わるだろう。お金さえあれば豊かな人生になるだろう。成功さえ納めることができれば、人生成功なんだろうと思って生きていくのです。そのようにして頑張ってきた、走ってきた、そのような自分、その結果、あがきをしてもがくしかありません。そういうものを手に入れるために、そこで偶像崇拝をしたり、宗教にのめり込んでりしてしまったり、占い等のほうに頼ったりするしかないのです。ねじ曲がった人生のために。本当はそこにまことの幸せもまことの部屋も人生の成功もないのに、勘違いの中でそれにポイントを絞って走ってきた、ねじ曲がった人生、それはイエス様とともに永遠にお墓の中に葬られました。だから、もう二度と信者のものではありません。そして、滅びの運命にとらわれて、ねじ曲がった人生を生きるしかなかったので、結果的に人生そのものは崩れ落ちて、壊れるしかありません。自分がもう壊れていたのです。マタイ11:28、すべて疲れて重荷を負っているものは、私のところに来なさい。心もボロボロ、精神的にも患うようになるしかありません。なぜそうなってしまうのでしょうか。自分で神様を離れて、ねじ曲がった人生を歩いてきたので、もともと、根本的にそうなるしかない滅びの運命を抱えて生まれてきたからなのです。誰かのせいではありません。そして、精神的に壊れ、肉体的にも壊れて、さまざまな病気を患うようになり、人間関係も壊れていき、家庭も崩壊していくようになるし、それが次の世代にも全部受け継がれるようになり、そして、次の世代も壊れていくようになるしかありません。このように壊れてしまった自分は、イエス様とともに永遠にお墓の中に葬られてしまったわけです。それなのに、信者なのに、このような以前の自分といまだに付き合っているのです。イエス・キリストが十字架にかけられたときに、私はその時に生まれてもいなかったのでしょう。しかし、皆さん、信じてください。そして、そこにオーバーラップしないといけません。イエス様が十字架につけられたその時に、今申し上げました滅びの運命にとらわれて、ねじ曲がった人生を生きていて、結局は疲れて壊れてしまった自分はともに十字架につけられたのです。そして、そのイエス様が、お墓の中に葬られたときに、その以前の自分も一緒に葬られました。それが認められないと、イエス様を信じる理由がありません。イエス様を信じると言う事は、そういうことなのです。自分ではどうしようもできない、もう生まれた時から、世の中の言葉では運命なのです。イエス様が十字架にかけられたときに、私は何も知らないでいたのですが、そこに一緒に死んでしまいました。お墓の中に一緒に葬られました。だから、以前の自分は、実は、存在しません。しかも、そのふたは永遠に開けられないものなのです。イエス様の復活のほかにはそれが開きません。このことを自分のものにする、そのような信者の方々が、勝利の道を歩むようになります。

そして、そのように葬られてから、神様は自分を完全に新しく作り替えられました。それを再創造といいます。イエス様がよみがえられたときに、そのふたが取り除かれるようになったのです。それは昔の自分がまた、よみがえるわけではありません。それには永遠にふたをして、イエス様の復活とともに新しい自分が生まれてくるようになると言うことなのです。イエス様の復活に自分の復活と言うものもそこに一緒に入っていると言うことを覚えていてください。イエス様の全ての中に自分が一緒にくっついているわけです。それをクリスチャンといいます。それは救いと言うわけです。そういうことがわかっている方々は、何を食べるか飲むかなどはゲーマーになるはずがありません。色々な葛藤があるでしょう。そして、どうしても勇気が持てない、また、無気力になってしまう時もあるでしょう。何も心配せずに、何かのせいなどにせずに新しい自分と向き合うようにしましょう。以前の自分は、イエス様とともにお墓の中に永遠に葬られていることを告白して、それを全部投げ捨てましょう。サタンは、それをよみがえらせて、皆さんとつきあわせようとしているわけです。その時ごとに「もう違うよ」と歯を食いしばってでも、苦しい思いをしてでも、感情的に喜びがまだまだ沸き起こるなくても、信仰を持ってNOと突きつけなければいけません。そのためにイエス様が十字架で血を流されて、神であるイエス様が、罪のない方がお墓の中に葬られてハデスまで行かれたのです。皆さんが以前の自分と永遠にお別れすることができるために。信じてお別れしてください。また、思い浮かぶようになり、よみがえってくるようになりますが、それは全てが悪魔の仕業だと、瞬時に感づいてNOと言いましょう。イエスはキリストと。十字架で葬られよみがえられたイエス・キリスト。それ以外にこうしなければ、もうちょっとこのようにがんばらなければ、自分をこのように変えなければ、それは余計に疲れるだけです。そういうことがダメだから、イエス様が葬られたのです。正しい人間になるとは思わずに、自分を変えようとも思わないように、イエス様が皆さんを変えたわけではなくて、完全に殺して新しく作り替えました。それに頼っていて下さい。今までヒューマニズムや人間至上主義などにあまりにもどっぷりつかっていたので、そういうことを認めるのが恥ずかしいかもしれませんが、イエス様がなさったことに100%頼ってください。自分で何かしようとせずに、神様がイエス様の復活とともに、以前の自分は葬られて完全に新しく作り替えられました。ですから、滅びの運命にとらわれていた自分ではなくて、もう二度と絶対に滅びることができない自分に作り変えられたのです。まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じるものは、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っているのです。絶対に滅びることができません。そのような自分に帰られているのです。だから、ローマ8:2に書いてあるように、死と罪の原理から永遠に解放されているのです。ヘブル10:17-18、あなた方の罪かは記憶にもしない。だから、二度と罪のためにいけにえをささげることなどは全くいらないとおっしゃっているのです。そういう自分になりました。イエス様が葬られることによって、イエス様が復活なさったことによって、自分はそういうものに作り替えられました。神様が新しく作り変えられた自分と向き合うようにしてください。そして、ねじ曲がった人生を送っていた自分は死んで葬られて、神様がとても喜ばれる、神様がご覧になった時にうれしくて、うれしくてしょうがないそういう自分になっているのです。自分を愛するようにしてください。

これはどんなに時間がなくても聖書を開いて確認したいと思います。ゼパニヤ3:17、 あなたの神、主は、あなたのただ中におられる。救いの勇士だ。主は喜びをもってあなたのことを楽しみ、その愛によって安らぎを与える。主は高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる。これが皆さん自分自身のことであり、誰でもイエス・キリストを信じるものは、イエス様の復活とともにねじ曲がった人生、神の御怒りを受けるべきものを葬られて、このように神様がものすごく喜ばれる神様のお気に入りの存在に作りかえられているわけです。ローマ3:24。自分の気持ちや自分の経験、この世から教わってきた知識等に頼っていてはいけません。ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。義と認められるとはどういうことでしょうか。お前は合格だ。お前は私のお気に入りだよ。わたしはあなたのことを喜んでいると言う宣言なのです。誰のことでしょうか。レムナント教会で今礼拝を捧げていて、ときには葛藤にとらわれて無気力になって辛い思いをしている信者の皆さんのことを指しておっしゃっているのです。勘違いしないでください。古い自分を脱ぎ捨てて、新しい自分と向き合うようにしましょう。もっと簡単に申し上げると、イエス様の十字架、イエス様の復活を馬鹿にしないようにしましょう。それはうっかりするとサタンを褒めることになってしまうのです。自分のことをだめだと言う事は、サタンのことを褒めることになるかもしれません。どれほど神様は皆さんのことを喜んでいらっしゃるのか。Ⅰコリント3:16。あなた方は聖霊が宿っている神の神殿であることをわかっているのか。皆さんの内側に入ってこられて、一緒に住みたいほど皆さんのことを喜んでいらっしゃるのです。これは言葉では言い表せません。

その結果、壊れてしまった自分は、イエス様とともに葬られて、イエス様の復活とともにどういう存在になったのかと言うと、壊れているたましいを、崩れて崩壊している人生を生かすものとして作り替えられているのです。今日の聖書に、それがよく示されているでしょう。イエス様がでしたちの前に現れて、あなたが罪を許すなら罪を許される、そうでなければ罪はそのまま残りますよとおっしゃいました。あなたによって人々の運命が左右されるのだということです。私がこのように遣わされたように、あなた方を世に遣わしますよと、そういうものにあなた方は作り替えられているのです。何を食べるか何を飲むかと言うテーマの人生はもう卒業です。伝道者なのです。それで信者に向かって、イエス様にしか使わない称号が与えられます。王である祭司、世の光、世の塩と言われるものになっています。それが皆さん自分のことなのです。以前のものは過ぎ去り、神様が皆さんをそのように作り替えられました。今の外見や人間的な能力や今置かれている環境がどうなのかなどと一切関係なく、イエス様の復活によって、以前の皆さんはもう存在しません。葬られました。新しい自分しかいません。人を生かす存在なので、天使が手伝うようになるしかないし、サソリと蛇を踏みつける権威が私たちにはすでに与えられているし、聖霊充満の祝福が約束されていて、だから、このような新しい自分と向き合って、この祝福を握って本当に祈ると、すべての葛藤など全部吹き飛んで、神の勝利の門が開かれます。そういうものに作り替えられています。本当に祈ると、人を生かす祝福の門が開かれるわけです。そういうものに神様は作り替えられました。気持ちに従わず、神の御言葉に従って自分を見つめ直すなければいけません。それがイエス様の復活の一番大きな意味なのです。みなイエス様の十字架と復活を信じますよね。それなのに自分がこのように完全に作り替えられたものなのだ、イエス様の復活と一緒に私も復活したのだ、以前の私はイエス様と一緒に葬られて永遠にふたをして、私は新しいものに作り替えられているのだということがなぜ信じないのでしょうか。

これからは、このことを心に留めてください。過去の以前の自分は本来、居場所と言うものがあります。それは永遠にふたがあかないお墓の中なのです。だから、以前の自分がサタンによってよみがえったかのように思われる時があるのです。そういうときには、瞬時にお前の居場所はお墓の中なのだ。出られないところなのに騙されない。いつも本来の居場所に正しく戻しましょう。お墓の中に戻りましょう。いじめられて傷ついて虐待され無能な自分、悲しい辛い人生を送ってきたその自分、それはお墓の中にいつも戻しましょう。ふたをして、永遠にふたを開けないようにしてください。本当はふたは開かないのです。でも、私たちがキリストを忘れると、自分で開けられるかのようについつい開けてしまうのです。本当は開かないのですよ。サタンが手伝うのです。だから、永遠に開けないようにふたをしてください。記憶にあるかもしれません。それは全部事実かもしれません。でも、それと関係ありません。事実なのかどうかではありません。真実なのか真理なのかが問題です。イエス様が無駄に十字架で死なれて、お墓の中に葬られたわけではありません。ぜひ過去の自分から卒業して、永遠にさようならをして、お別れしていただきたいと思います。イエス様は寂しいのです。いまだに二股なのか。ふたをしてください。昔の自分、昔の浮気相手などは、携帯から番号を全部消してください。イエス様がご覧になると寂しいのです。

それから、復活の中にある自分、新しい自分だけを相手にしましょう。過去の自分をそこに一緒に混ぜ合わせて、向き合ったりせずに、復活の中にある新しい自分だけを相手にして向き合って付き合っていくようにしましょう。だから、皆さんが自分自身と付き合っていかなければいけません。ダビデはこのように祈ったことがあります。不安になった時に、自分で自分のことを指して、「お前、なぜ心の中で不安がっているのか」と自分で自分に言い聞かせるのです。結局、信者の皆さんは、自分と付き合っていくことなのです。その自分が復活の中にある新しい自分だけになるようにしていただきたいと思います。そうすると、約束します。イエス様の復活の力が、皆さんを通して、必ず現れて、伝道者としての答えを味わうようになることを約束します。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。キリストの十字架、また、葬られ復活なさったことによって、私たちの以前の過去が完全に葬られ、復活の中で完全に新しく作り変えられているはずなのに、サタンの悪巧みでだまし、過去の私と向き合うように、付き合うように騙しています。今日のメッセージを握って、瞬時にそれを退け、過去を脱ぎ捨てて、新しい自分と向き合い付き合っていくことができるようにしてください。それで常に感謝とともに喜ぶことができるように、兄弟姉妹を祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。